

第3回 公開講座 「今、エネルギーを考える」

参加者アンケート集計結果

主催：東北大学 工学研究科

共催：東北大学 流体科学研究所

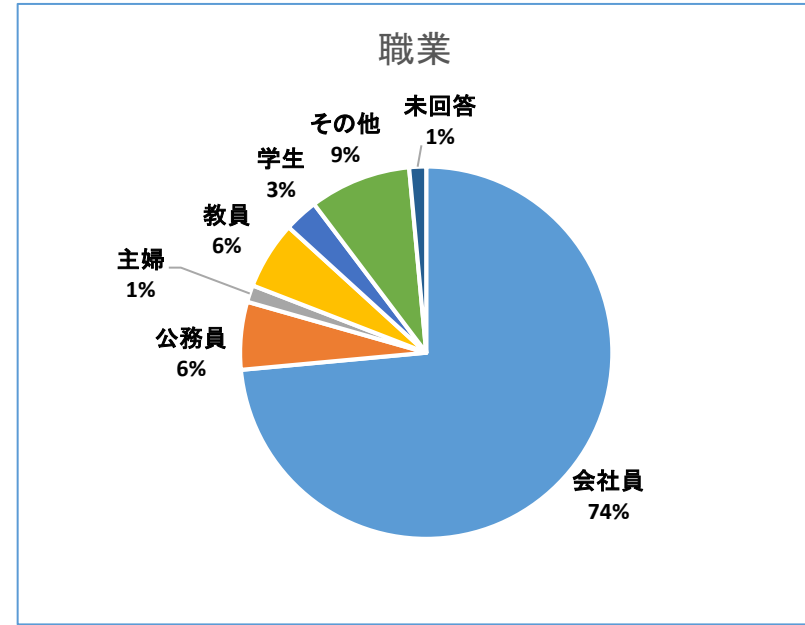
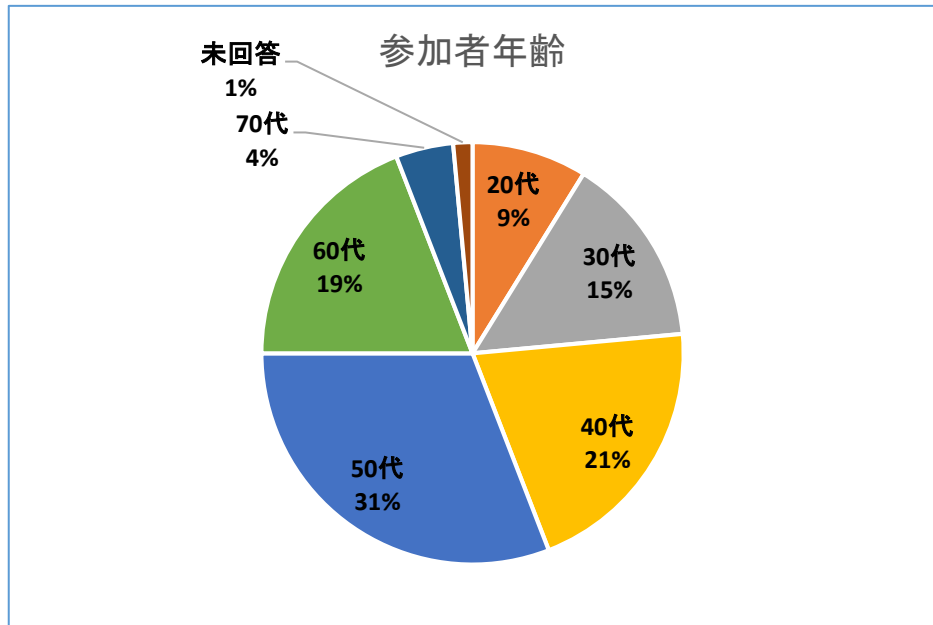
：日本保全学会 東北・北海道支部

日時：平成29年2月4日（土）

場所：東北大学 流体科学研究所2号館5階 大講義室

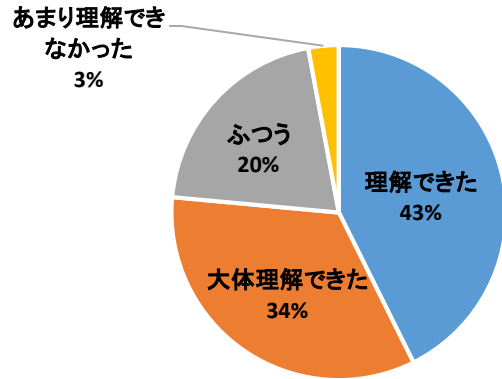
アンケート回答者について

回答数68: 男性64名、女性3名、性別未回答1名

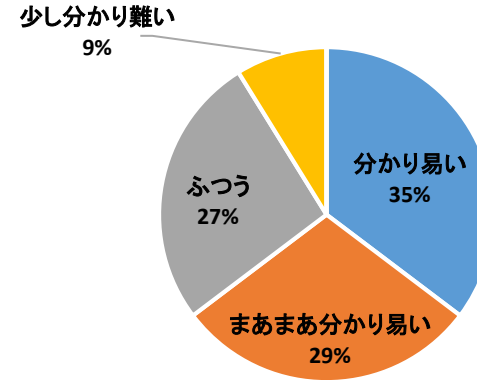


講演1:「安全規制は事故から何を学んだのか」

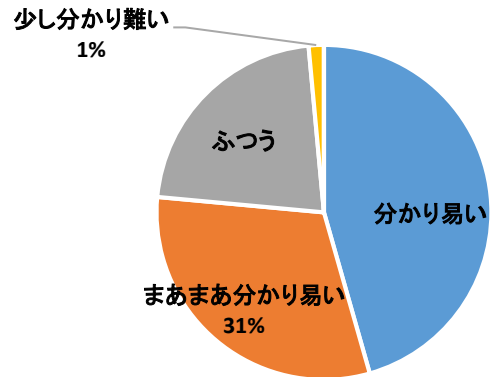
(1) 講演の内容について



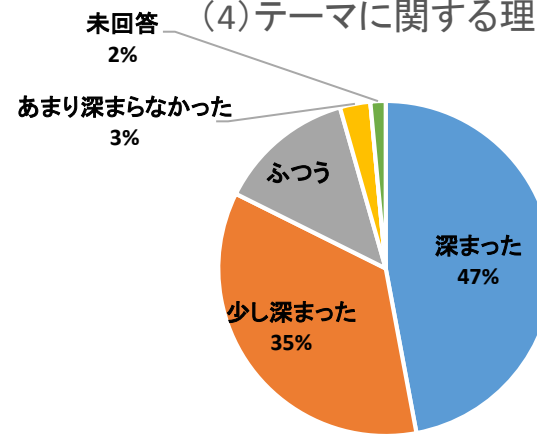
(2) 配布資料



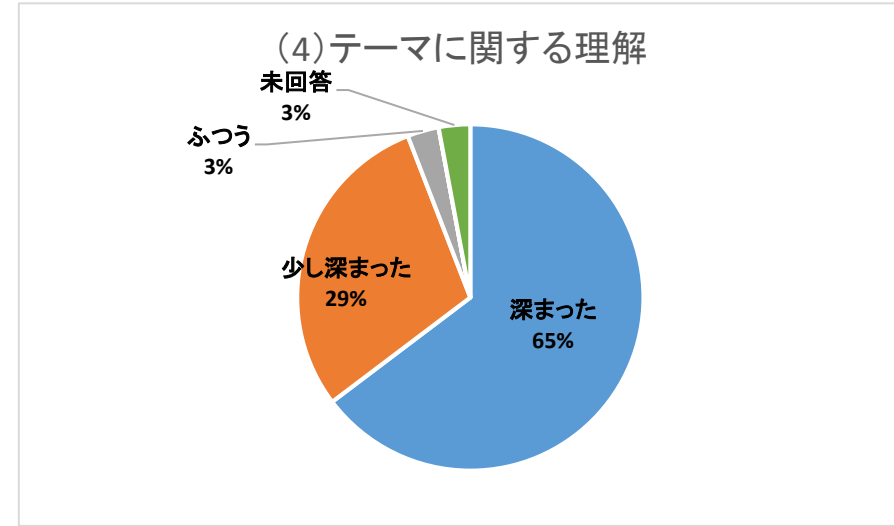
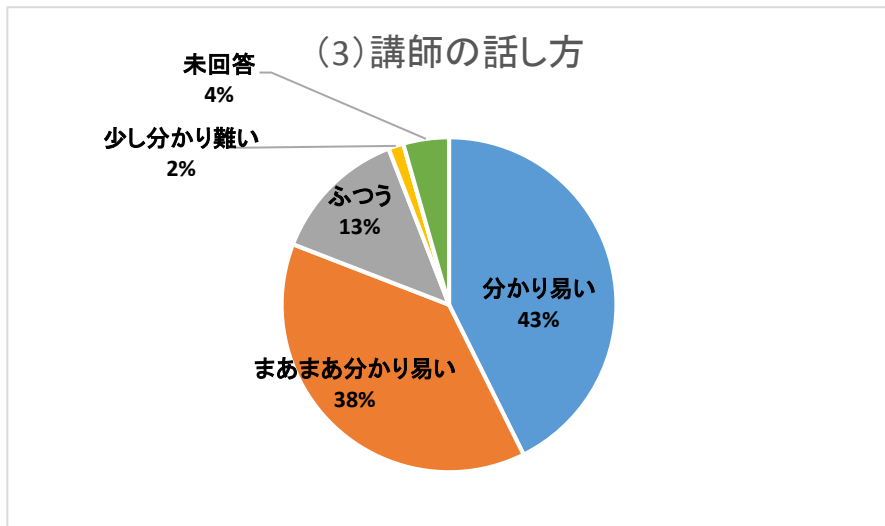
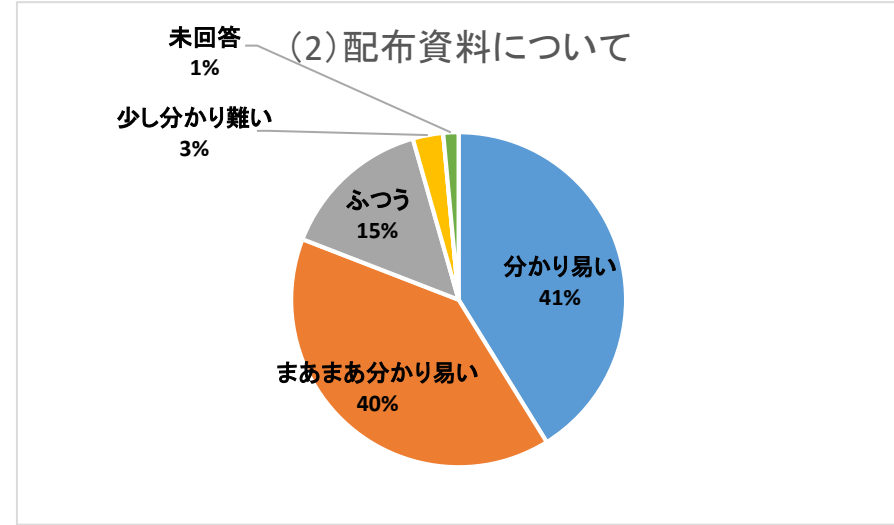
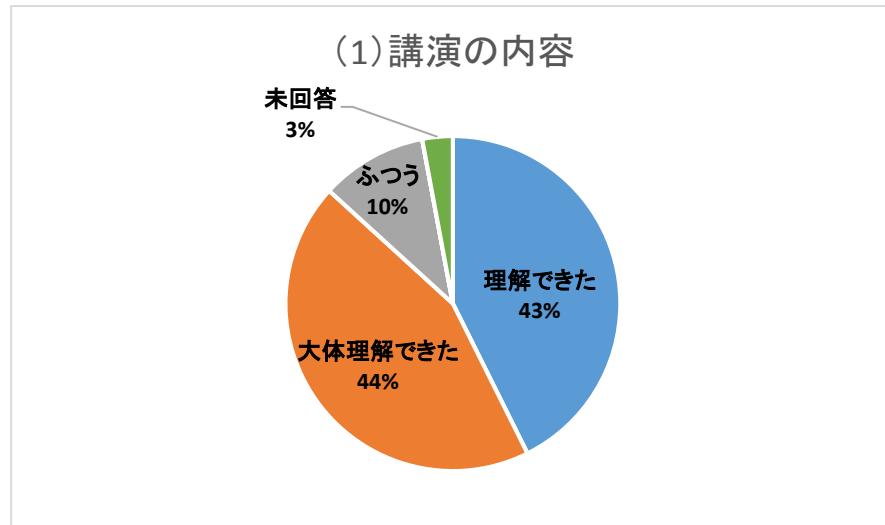
(3) 講師の話し方



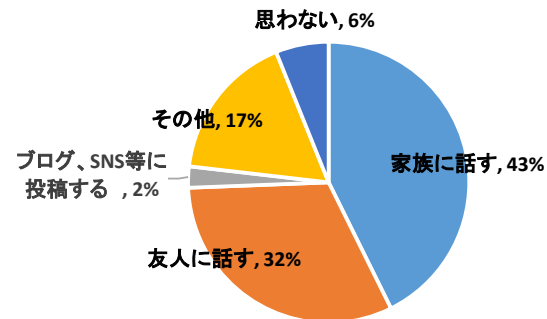
(4) テーマに関する理解



講演2:「福島事故後の放射線による健康影響について」

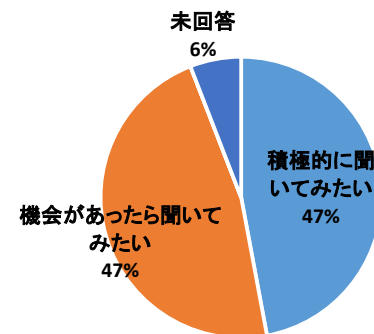


(5) 本日の講演を、誰かに話したり
 教えたりしたいと思いますか？ (複数回答可)

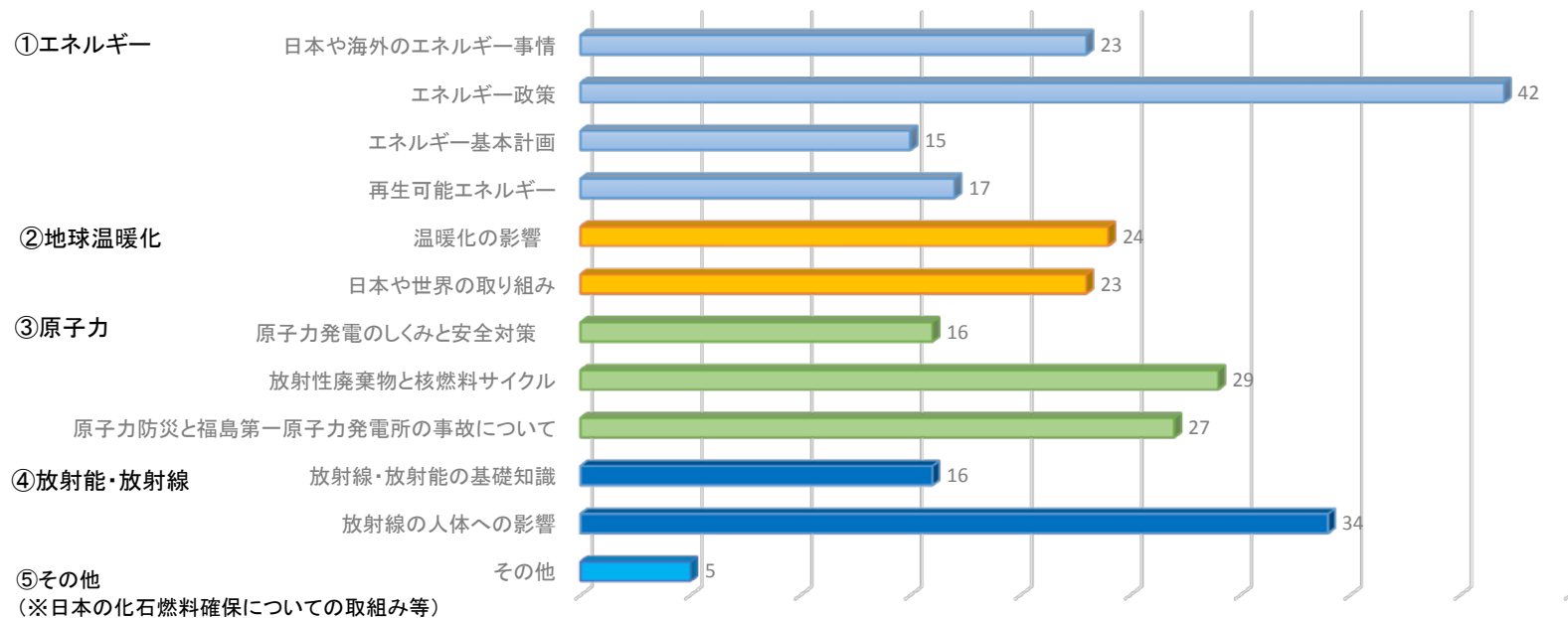


※その他は職場の上司、同僚など

(6) 今後このような講演を聞いてみたい
 ですか？

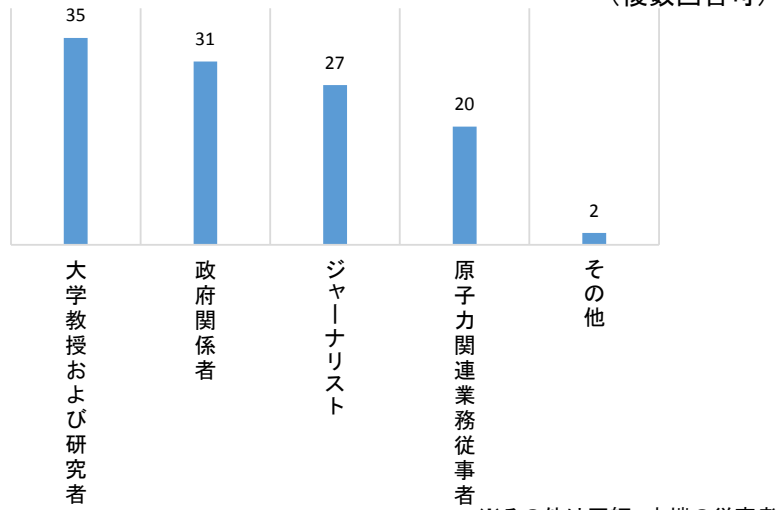


(7) 今後どのようなテーマについて聞いてみたいですか？ (複数回答可)



(8) 聞きたいテーマに関して、どのような人の話を聞いてみたいですか？

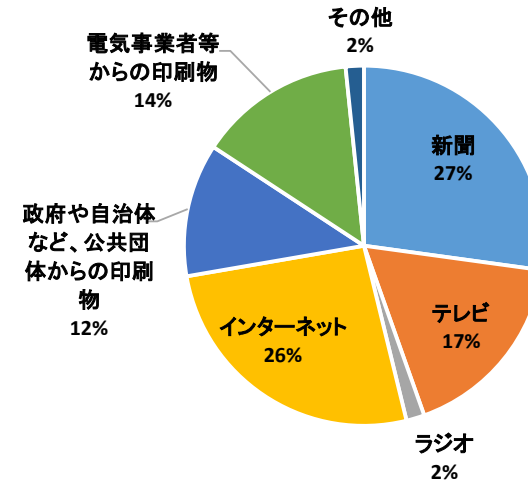
(複数回答可)



※その他は医師、末端の従事者

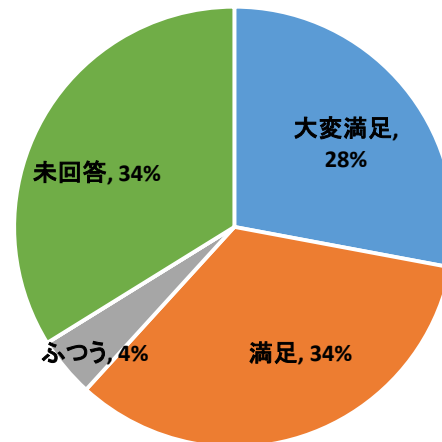
(9) 普段、どのようにエネルギーや放射線に関する情報を入手されていますか？

(複数回答可)



※その他は産業医、職場など

講演全体を通しての満足度



(10)この講座について、お気づきになられたことを自由にお書き下さい。

1	平岡、宍戸、両先生のお話が聞け、とても参考になった。また受講したいと思います。ありがとうございました。
2	①3.11当時の実状を踏まえての話で良かった。②Dataを示しての講演で理解しやすかった。
3	[前半の講演]“善良な”事業者を前提にすれば今回の話の内容にも合点がいくが、実際には事業者には経済合理性が働くために“善良な”事業者たりえないものである。安全規制を考える上で、重要なことは、被害を被る側のリスクを減らすことを重要視したものでなければならないということではないだろうか。 [後半の講演]これまでの放射能の知見ならびに事故後の健康調査に基づくデータからは、現段階では分からないにせよ、本災害における放射能の影響は無いことが理解できたが市民の間にはその知見がうまく伝わっておらず、不安が解消されていないという現状があるとのことだった。まさに科学者が問われているのは、そうした市民に対して科学的知見が伝わらないことにもとづく市民の意見形成が困難になっていることであり、これはコミュニケーションに特化した第三者の役割ではなく科学者自身が身につけるべきスキルであると思われる。
4	専門家の方から大変わかりやすい話をさせていただいて、ありがとうございました。データをわかりやすくお話をいただけるのは、大変ありがたいです。
5	放射線教育の重要性を痛感した。より広く正しい知識を持つ事が学校教育に求められる。
6	生の声を聴講でき大変参考になった。今後も国、自治体、事業者などの実務レベルの方から実状を聞きたい。
7	今回のように現場のよく分かっている方が話をさせていただくと参考になります。大変勉強になりました。
8	放射線の影響というよりは不安やストレスといった心のもち方が健康に影響大と感じました。保安院の立場での対応や見方、状況が聞けて大変良かった、参考になった。
9	大変勉強になりました。低線量ひばくによる健康への影響を正しく知っている事は重要だと思いました。
10	平常に生活した場合の放射線被ばくや航空機、医療行為による被ばくに比べて福島の方たちの事故による被ばくが十分に低く、影響は将来に渡って出ないであろうと思いました。
11	第1部の講演の首相官邸での対応の話に非常に引き込まれた。これだけ2時間とっていいくらいに思った。
12	震災関連死について、他都道府県との比較のお話し、興味深くお聞きしました。お聞きして、1つ更に思ったのは、福島の場合、放射能汚染で故郷に長期に帰れないことによる心的影響も大きいのかなと感じたことです。この旧生活に戻れないことによる影響が他災害、他府県ではどうなのか、特に長期に渡った場合のデータでお示しいただくと更に理解が深まると思いました。
13	①事故対策(その前の安全審査を含め)にかかわる現規制の人材育成・確保が大事。 ②原子力の必要性を議論するためには再処理を含め燃料サイクルの確立が喫緊の課題だが国策(制作)に反映する国民の声になっていない。 ③住民の合意なしにコトが進められないのに住民の半分を占める女性層の理解をすすめる、平日のセミナーを含む施策が見えない。 ④福島事故でP.B全原子炉停止する意味があったのか長中短期に分けて対策をいまでも考えるべき。
14	「今、エネルギーを考える。」というタイトルであるならば、もっと広くエネルギー分野に関するテーマを取り入れて欲しい。現状、原子力分野に偏りすぎているように感じてしまう。

なお、大変ご好評をいただき、会場が満席になってしまったため、「もう少し広い会場だと良かった」とのご意見も頂戴しましたので、次回以降の参考にさせていただきます。貴重なご意見を頂戴しありがとうございました。